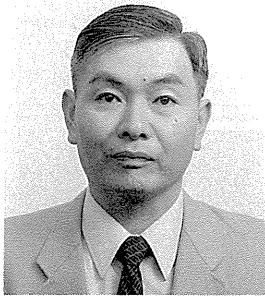


創立60周年記念誌



東京農業大学農友会自動車部



自動車部創部60周年を迎えて

常磐松自動車倶楽部 会長 片岡二郎

昭和60年に行った創部50周年の式典がまだ昨日のように新鮮に脳裏にうつりますが、この10年はまさに日本にとっても世界にとっても激動の時代でありました。

年号が昭和から平成に変わり、すべての経済指数が上へ上への時代はバブルの破綻で90度逆転しました。政権も保守から連立へ等々、日々の変化は枚挙の余地がありません。変革とは皆がその大きな渦に巻き込まれている時は判らないが後世にその軌跡を見ることによってその大きさが判ると言われていますが、この変革の渦はまさに渦中にある我々にもその動きが判るのでから相当な変革の時期であると言えます。

通常変革とは技術が未成熟の状態か又は超革新的技術の出現により社会環境が大変革することですが、ここ10年間の技術革新は何と言ってもコンピューターの発展でしょう。

この技術は科学技術はもとよりあらゆるメディアの根本を覆し、子供のゲームの世界まで一変させてしまいました。

この変革は、我々の最大関心事の自動車にも大きな変革をきたしました。が、他の産業ほどではなかったように思います。勿論機械のコントロール、人工衛星によるナビゲーションシステム等大きな変革はありましたが、自動車そのものは既に成熟されたものであり、その社会環境を変革する役割は一時の状況により急変するようなパターンではなく、どっしりと落ち着いた王者の貫禄とでも言えるものでしょう。

学校の部活動は一見平坦に見えますが、実はこうした社会の環境変化に極めて敏感に連動しているのです。通常、運動部とは柔剣道等の古来よりの伝統スポーツを基盤としての精神鍛練の場です。が、自動車部は自動車という道具としては比較的新しく、かつ技術そのものも進化の過程を更新しているものを媒体としており、運動部の中では珍しい存在と言えるでしょう。

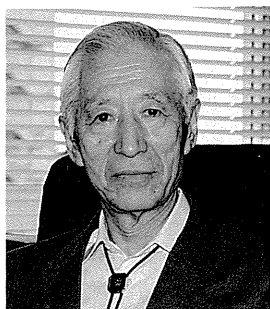
自動車部はその歴史から明治、大正はもとより昭和10年までは貴族の象徴、20年代は戦争を主体とした機動力としての評価(この時代に多くの自動車部が創設されています)、そして戦後は昭和30年代後半までは運搬の機動力とともに、一部新興金持ちの象徴、40年代に達してやっと一部庶民の手に届く範囲に拡大されてきました。(この時代は自動車部のラリー全盛時代でした。)しかし自動車部が一般の庶民の足となった50年代からは交通戦争の原因として必ずしもかつての待遇は受けられなくなりました。(この時代は自動車部の苦境時代で、かなりの学校が自動車部の活動を休止したと思います。)

我々も50年式典では60年式典に一抹の不安を持ったのも事実です。しかし私達はかなりの逆境にも負けずに新春ラリーを継続させ、数少ない学連競技にその力を爆発させ、今日の60周年にたどりつきました。今日では一時のブームでなく伝統と自動車を愛するもの場として確実に部員も増加しつつあります。60周年を迎えたこれからが本当の自動車部となってゆく時代だと言えるのではないのでしょうか。

振り返って見ますと、これまでの自動車部は自動車を中心として人がまわっていたように思えます。これで自動車が変わると人も変わってしまいます。しかし、これからは人が中心となって自動車がまわる。こうなると自動車が変わ(進化)っても人そのものは変化しません。太陽電池、バッテリー自動車等今後はエネルギーを中心として自動車は変化(進化)し続けるでしょう。しかし、自動車部は人中心であるかぎり着実に歩き続けることと思います。60周年はこの変革の時代の第一歩なのです。

東京農業大学農友会自動車部 創立60周年記念誌目次

御挨拶	常磐松自動車倶楽部 会長 片岡二郎	1
	東京農業大学農友会自動車部 部長 淡谷恭蔵	3
	東京農業大学農友会自動車部 監督 村田信雄	4
	創立60周年記念行事実行委員会 委員長 水野政純	5
	東京農業大学農友会自動車部 平成6年度主将 土屋幸康	6
祝 辞	東京農業大学 学長 松田藤四郎	7
	全日本学生自動車連盟 会長 渡邊眞一	8
	東京農業大学農友会体育団体連合会 会長 麻生昇平	9
	東京農業大学農友会自動車部 顧問 近藤典生	10
自動車部10年間の記録		
	昭和59年度～平成5年度	11
思い出の部車		49
農大新春ラリーと共に		
	第22回～第32回の記録およびエントラント、ラリー責任者からのメッセージ	53
遠 征		
	昭和58年度～平成5年度	60
競技説明		
	NOW,ON TRYING! NODAI Automobile Club	65
OB・OGからのメッセージ		73
常磐松自動車倶楽部会則		85
常磐松自動車倶楽部会員名簿		87
広告		99
あとがき		119



御挨拶

東京農業大学農友会自動車部 部長 淡谷恭蔵

農友会自動車部創設60周年記念誌の発行にあたり、一言御挨拶申し上げます。

農友会自動車部が有意な人材を輩出しながら、隆々60年の歩みができましたことは、大学当局をはじめ農大自動車部を指導後援して下さった多くの方々、OB、OGの力に負う処が大きく、あらためて感謝の意を表します。

私が部長に就任した時を振り返ってみますと、当時は地球の地下資源を利用して工業化社会が進展し、大きく経済成長をとげたのですが、この発展には自動車が重要な役割を果たしてきました。

農業部門においても、耕作から収穫、流通までの農業生産にトラクターや自動車が活用され、他の大学にはない農大自動車部なればこそそのクラブ活動の意義があった訳です。

従って、自動車部に入部を希望する新入生が多く、部車が足りなくて運転練習の時間が少ない、部室が狭いなどの悩みを抱えたときもありました。(現在の学生は部の規律や訓練に縛られるのを嫌い、車を遊び道具と思っている者が多いので、他の運動部と同様に敬遠され、新入部員の勧誘に苦勞しています。)その頃、自動車部創設50周年記念式典が挙行され、全国OB、OGの運転による日本一周リレードライブに使われたプレーリーを寄贈されましたが、そのときの喜びは今でも思い出されます。

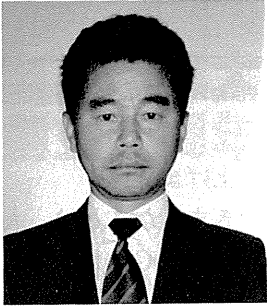
それから10年がたち、創部60周年を迎えた訳ですが、その間に思い出されるのは、部員から試合に個人車で出場させて欲しいと要望されたことです。他大学では個人車の出場もあるとのことですが、当部では公式戦には部車以外での出場はしないと許可をしませんでした。高性能車で出場すれば勝てる機会が多いかも知れませんが、部員の力を結集して部車を整備し、その車で運転技術を競うのが、学生モータースポーツ本来のあり方だと思うからです。その結果、負けて悔しい思いをしたこともあったでしょう。

しかし、先輩各位の御理解と、監督、コーチの指導、部員の頑張りが実を結び、この数年の間に何度か優勝の栄冠を手にすることができました。

この喜びを、創設60周年記念誌に報告できることを大変嬉しく思います。

いま、地球規模の環境汚染が問題となっており、この環境汚染に車社会がかかわっていることは否めません。従って、21世紀は脱工業化社会の方向へ進展するといわれており、農業は環境保全型の生産が希求されています。このような変革が予測されるなかで、部員たちは東京農業大学に於ける自動車部の在り方を模索しながら活動することになります。

今後共、農友会自動車部のクラブ活動の成果を挙げるため、御指導御支援を賜りますようお願い申し上げます。



御挨拶

東京農業大学農友会自動車部 監督 村田信雄

自動車部創立60周年を監督として迎えられた事を非常に嬉しく思います。

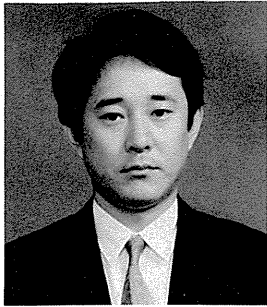
この事は学生の努力もさることながら学校当局、連盟、OB等の皆様のあたたかいご指導ご援助があったがゆえに迎えられたものと堅く信じており、感謝に耐えません。

思い起こせば10年前の50周年の時も監督でした。この間女子個人の全国制覇や種目別個人の優勝はありましたが全国制覇は無く、日本一の壁がいかに厚いかを痛感致しました。99%の努力と1%の運などと一般に良く言われます。全国制覇が無い事の弁解ではありませんが、自動車を使用しての競技の為100%の努力のみでは勝つことはできません。ここ10年で全国大会入賞上位校の成績を見ると殆ど差が無く、試合車の性能が勝因のウエイトを大きく占めるようになってきました。全国制覇をするには試合車の性能と、試合車の性能を100%引き出す技量、これが必要であります。技量に関しては部員が日々努力をしていますが試合車の性能に関しては努力のみではなんともし難いものがあります。ゆえにこの機会を借りて学校当局に特に性能の面でのご支援をお願い申し上げます。

またこの10年間に於て大きな事故、問題も無く過ごせた事を特筆させていただきます。このことは試合で全国制覇する事以上に大切な事であり、今日60周年を迎えられたひとつの大きな要因だと思います。

我が自動車部が今後70年、100年を迎えるにあたって念頭におかなければいけない事は、絶対に事故を起こさない心がまえであると思います。現在自動車がいろいろな社会問題を抱えており、今後自動車そのものが大きく変化していく中で当然大学自動車部も変化せざるを得ないでしょう。

交通事故等の自動車を取り巻く社会問題を引き起こさない事が自動車部の使命のひとつであり、監督として自動車部創立60年を迎えるにあたり以上の事を再確認し、また明日を迎えたいと思います。



ご挨拶

創立60周年記念行事実行委員会 委員長 水野政純（昭和58年卒）

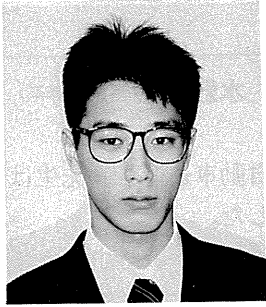
この度は、私ども自動車部創立60周年に、学長先生、全日本学生自動車連盟会長先生はじめ多くの先生、諸先輩からご祝辞を賜り誠にありがとうございました。

私ども、自動車部は、昭和9年に設立された『自動車研究会』を母体に、戦時中の中断期を経て現在に至っております。60年間の卒業生が、現在判明しているだけで約380名おります。この中には、誠に残念ながら既にお亡くなりになられた方が16名いらっしゃいます。設立メンバーのおひとりである、昭和10年ご卒業の有働先輩、また昭和16年ご卒業の増田先輩のお二人につきましては、この60周年記念行事の準備が始まって間もなくの昨秋、突然の悲報を承りました。60周年の式典を楽しみにされていたとのお話をご家族からお聞きいたし、重ね重ね残念に思っております。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

さて、当部の60年の歴史を過去の資料や先輩方からお聞きした事柄から、かいつまんでご紹介いたします。設立時は、部車というものは無く、個人車のフォードに部員が学生服の上にツナギを着て、部活動をされていたそうです。第2次世界大戦後は、何とか戦災を免れた戦前の部車1台から再スタートをし、昭和34年に全日本学生自動車連盟（学連）に加盟、昭和38年には『農大新春ラリー』を開催（現在はOB会主催）し、現在まで継続されています。対外的には学連・武連での試合への参加、その運営サポートなどで活躍しています。学内に献血車を呼んでの献血運動のお手伝いも既に20年近くになると聞いております。

この様な60年の歴史を作った人たちは、世代も生まれも違う人々です。しかし、学生時代を自動車部で過ごした共通の体験があります。その中身は時代によって様々かもしれませんが、それぞれの世代が『鎖』の様に少しずつジップしながら一つに繋がっているのではないのでしょうか。そんな思いをよりどころに、在京の若手OB・OGで今回の記念事業を企画いたしました。何分にも不慣れなことで、礼を欠いた事も幾度かとは存じますが、何とぞご容赦ねがいます。

最後になりましたが、この度の記念事業にご協力頂きましたOB・OG始め、ご協賛頂きました企業の方々、ご投稿頂きました諸先輩方には、この場をお借りしまして、心より感謝を申し上げます。ありがとうございました。



主将挨拶

東京農業大学農友会自動車部 平成6年度主将 土屋幸康

東京農業大学農友会自動車部が創部60周年を迎えるにあたり、我々部員一同はこの記念すべき年に現役部員として活動ができることを光栄に思います。

60年という大変長い時間の中で部活の内容や自動車部を取り囲む環境は変わって行ったとは思いますが、車というものに対する真剣な心意気は我々も諸先輩方も共通のものではないかと思えます。

平成6年度農大自動車部は総勢34名、部車6台（トヨタコースター、日産コンドル、日産アトラス、日産プレーリー、ホンダアコード、ダットサン210）で毎日の部活動を行なっております。普段の活動は、全日本学生自動車連盟などの公式競技への参加とそのための整備と練習、そして来年で33回目を数える「農大新春ラリー」の運営などが主な内容です。現在、学連の試合にはフィギア、ジムカーナ、ダートトライアル、ラリーなどがありますが、創部60年目にして日本一のタイトルを取りたいというのが現在の目標の一つであります。

ところで学連のスピード競技大会も今年よりJAFの準国内格式のイベントとなり、より一層、学生のモータースポーツが本格的なものへととなりつつあります。また、それに伴い安全基準の徹底や改造のため、“勝つため”にますますお金のかかる競技となってしまう、学校からの分配金と毎月2,000円の部費だけでは金銭的に苦しいことも事実です。しかし、平成4年より本格的に活動を開始されました常磐松自動車倶楽部よりご援助を戴き、我々現役部員も諸先輩方の期待に応えようと一生懸命頑張っております。また運営面や技術面でも部長や監督をはじめとする諸先輩方のご指導を賜りまして心より感謝しております。

今回60周年を迎えたことを一つの節目として、農大自動車部が次の世代に向け、今までの古き良き伝統を受け継ぎ、なおかつそれに縛られることなく新しい考えを取り込んで一層の発展を遂げるようお願い、努力していきたいと思えます。

最後になりましたが、農大新春ラリーや夏の遠征、フィギアの強化合宿等で諸先輩方にはご多忙中の所をご協力戴きまして感謝の念に絶えません。今後も変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願いいたします。



農友会自動車部創立60周年をお祝いして

東京農業大学 学長 松田藤四郎

自動車部が隆盛のうちに創立60周年を迎えられたこと、誠に喜ばしく、心からお祝い申し上げます。

60年の歴史は幾多の先輩たちがその時代に応じ、自らの青春を部活動の中に燃やし続けた足跡であり、その累積が輝かしい伝統となって今日に引き継がれたものと確信致します。

アメリカの大学では卒業生は大学の資源、学内の学問的蓄積は大学の資産といわれ、教育研究機関としての大学の評価はとくに、この2点であり、この財産は一朝一夕に出来るものではなく、大学の重みに欠かせない要素でもあります。

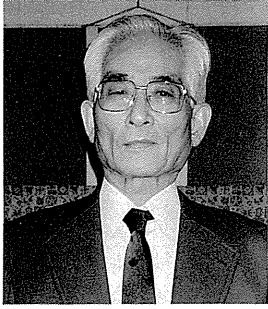
自動車部に限ったことではありませんが、東京農業大学に学び、とくに農友会に在籍し、先輩から現役へ、現役から後輩へと継承される無形の資産である「教訓」を学ぶ事は歴史の浅い大学では到底、望めるものではありません。

農業の機械化、近代化を推進する基礎となる知識の修得普及、運転技術、整備技術の向上を主旨とし設立された自動車部は近藤、小林、淡谷の歴代部長及び諸先輩のご尽力、ご指導のもと今日があります。

最近の活動としては全日本学生自動車連盟の運営の中枢を担い、各種選手権競技大会での輝かしい成績、献血ボランティアとしての社会参加、学内行事の積極協力等、自動車部の活躍は高い評価を学内外でされていると報告されています。

学長の私も大変光栄に思い、感謝するところであります。

東京農業大学は100年を越す歴史の中で21世紀に向かって、新たな飛躍をしようとしています。その礎は農友会の中で独自の歴史を持つ自動車部の確かな「英智」がその一翼を担うものと思われまふ。部長先生をはじめ現役部員、OB、関係者の情熱を注いで70年、100年と益々、発展邁進されますよう期待し祝辞といたします。



東京農業大学自動車部 創立60周年記念式典への祝辞

全日本学生自動車連盟 会長 渡邊眞一

東京農業大学自動車部におかれましては、本年、めでたく創立60周年を迎えられ、その記念祝典を挙行されるよし、誠に慶祝の至りに存じ、心からお祝い申し上げます。

昭和の初期には、わが国の自動車業界でも、そろそろ自動車の国産化の機運が熟し軍用トラックの試作が始まり、いすゞ、ちよだ、ろっこう……などのエンブレムをつけたトラックが試走を始めていました。また、日産のダットサン、高速機関のオオタ等という豆自動車が市内をごく少数ですが、走り始め、それまでフォード、シボレー、ビュイック、エセックス、ナッシュ等という外車が自家用に、ハイヤー・タクシー（円タク）用にと幅を気かせていたのに、僅かとはいえ、国産車が出始めたことは、我々大学生にとっては相当の希望的ショックでした。

それに触発されたように、各大学一斉に自動車部創設の機運が盛り上がってきました。大学によって、スポーツとしたいもの、機構の研究を目指すもの、軍事研究を考えるもの、単に免許をとりたいもの、目的はいろいろでしたが、特に体育系においてはそれまでの徒手で走ったり飛んだり泳いだりする体育、球やラケットなどの道具を用い人の能力を増幅して行う体育に対して、他にエネルギーを有した機械器具を利用する、まったく新しい形のスポーツ（第3種の）（人間—機械系）のスポーツとして、体育として自動車やヨット、グライダーは大学生にもっともアピールするものだった訳です。人間のもつ体力と頭脳力と機械の持つ力学的性能を、こん然一体として最高に発揮する形のスポーツが注目されたのは当然でした。果然、体育系の自動車部が台頭してきました。各大学とも驚くべき多数の学生の入部を見、その隆盛を見ることになったのです。

その後、準戦時体制から戦時、敗戦と世は移り変わりましたが、戦後になって自動車社会の発展は留まるどころを知らず、今日に至っています。

その草創の頃よりほぼ60年、昨年頃から各大学の自動車部が還暦の年を迎え、それぞれ60周年記念祝典を挙行する時期になっております。

今日、自動車はわが国の全世帯にもほぼ充足するほどの発展を遂げ、あまりにもポピュラーになってしまいましたが、その機能と利便性は疑う余地もありません。またそのスポーツ性もその通りです。ただそのスポーツ性があまりにもプロ化したためか我々の手元から遠退いてしまいましたが、そのマン・マシンとしての機能性と面白さは変わらないと思います。

その機能を利用した自動車体育の有用性、近代性と趣味性は、大学生にとって最適なスポーツと言っても過言ではないと思いますので、大いにその発展を促したいと思います。貴大学におかれましては、今日まで大変なご尽力をいただきました。どうぞ今後ともなほ一層のご協力を賜りたいと存じます。

おわりに、創立60周年を迎えられる貴部のご隆盛とご発展を祈念致しまして、お祝いの言葉とさせていただきます。おめでとうございます。



祝辞

東京農業大学農友会体育団体連合会 会長 麻生昇平

農友会自動車部創立60周年、誠におめでとうございます。昭和9年11月創設以来、着実な歩みのもと、実績を重ねられてきました。

この間、不幸な第2次世界大戦による活動の中断や敗戦後の混乱期等の多くの試練を乗り越えて、現在の輝かしい部活動へと脈々と継続されています。これも偏に自動車部OB各位の団結と協力の賜物であると共に部員の皆様の不断の努力の成果であると考えます。

現在では、所属している全日本学生自動車連盟が開催している各種競技会で優勝および上位入賞の成績を収めると共に、競技会運営校の大役を委任され遂行する役割を勤めておられます。さらに、毎年1月に開催されている「農大新春ラリー」は大学ラリーの模範的役割を演じており、33年間の実績を物語っていることは誠に素晴らしい事業と考えます。

自動車部は元来、機械科学の粋を最大の武器として利活用し発展してきており機械文明の推進は工業社会への貢献であります。さらに、現代人の社会生活を豊かにする自動車の進展は益々期待されるところでありましょう。しかし、その取り扱いによっては危険な凶器にも成り得るものであり、モラルを高揚しつつ社会に貢献し得る様に努力されることを望むものであります。今後一層部員各位の団結と友情の和を拡大しつつ充実した部活動を推進すると共に、自動車社会での健全な活用と利用上での啓蒙などを通じて貢献されることを期待して止みません。人間と機械との調和こそ安全にして快適な生活が保証されるものであり、部活動の原点ともなりましょう。

この記念すべき機会に部活動の本質を考えられて、つぎの70周年に、さらには100周年に向かって輝かしい活動とともに飛翔することを心から祈念してお祝いの辞と致します。



祝辞

東京農業大学農友会自動車部 顧問 近藤典生

今年（平成6年）は東京農業大学農友会自動車部が発足し、丁度60周年にあたることである。開部以来その世代世代の部員が諸種の困難を乗り越えて、部活動に専念されたお陰で、多くの成果をあげてくれたばかりでなく、長年の念願であった全日本杯のグランドチャンピオンを60周年にあたる本年は獲得できる可能性が非常に高いことを知り、私としても大変喜ばしく、感慨無量のものがある。というのも、自動車部は私と不思議な縁の繋がりがあり、それだけに自動車部についての思い出は数限りなくある。そもそも自動車部の正式発足の年である昭和9年その年に私が農大の農学部予科に入学した。そして同級の親しくしていた伊野部君（故人）らが自動車部に入部したお陰で自動車部の部車で時に運転の指導を受けることができた。一般人としては早くから自動車の運転を私が始めたのもそのようなことからである。

私は農大を卒業し、約10年間京都大学農学部の木原均博士のもとで研究生生活をおくり、昭和23年秋母校農大に育種学研究室を創設するために戻ってきた。戦後農大は渋谷常磐松から現在の旧陸軍機甲整備学校の跡地に移り、木造建築の兵舎が研究室や教室にあてられていた。現在の農大キャンパスからは想像もつかぬみすばらしいものであった。

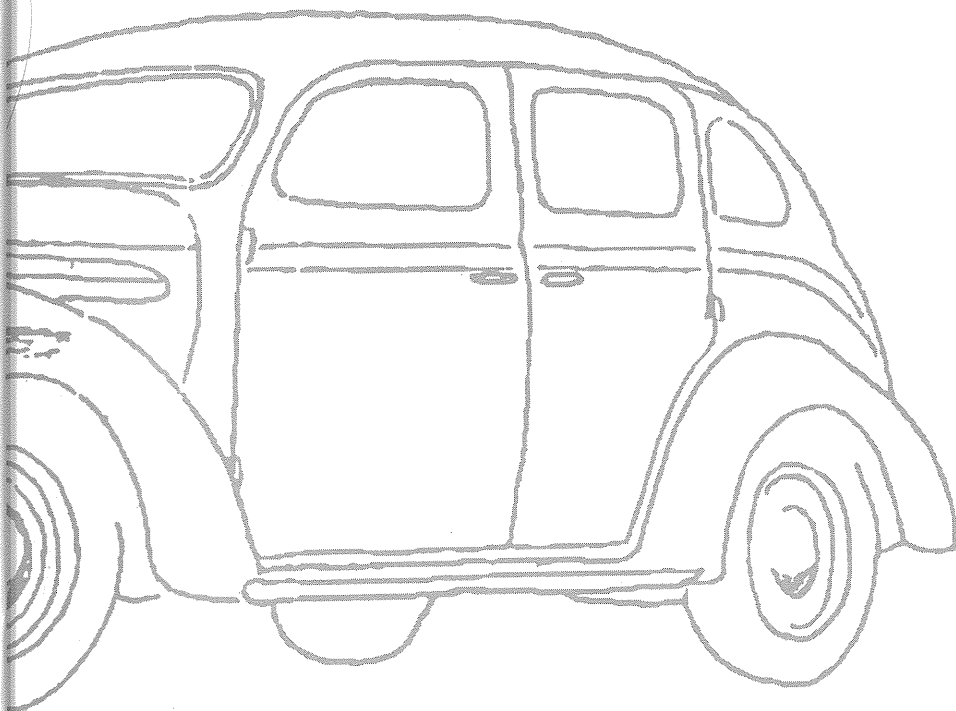
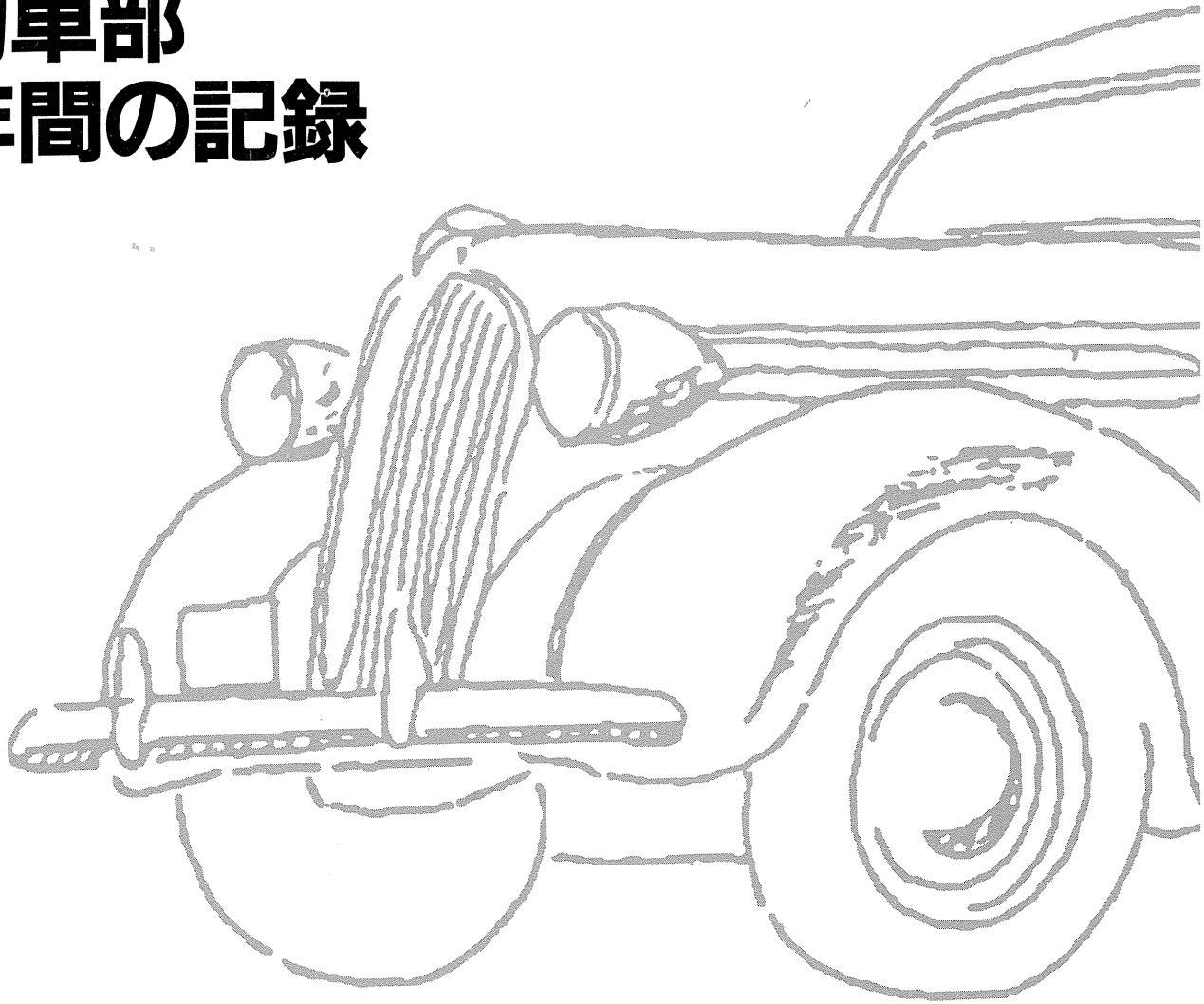
いつの頃であったのか確かな記憶はないが、イズズのトラックを運転している学生を見かけたので、急に運転の練習をさせてもらったことのある幌型フォードのことが思い出された。尋ねてみると、フォードはそのトラックと交換をしたのだということだった。そして、私と同じ農学科の池淵純君が植物病理研究室の助手をしておられ、自動車部学生の面倒をみていられることを知り、彼と自動車部のことを話しあうようになった。これらから考えると自動車部の戦後の活動は記録より以前の昭和20年代早期には既に始まっていたのではないかと思われる。

たまたま上京後親しくなった一寸木美一氏の会社には、使用していないキャデラックがあることを知り、社長のマック・クライマン氏に自動車部への寄贈を申し入れたところ、快諾を得た。数年後ウィルスのステーションワゴンをも同氏からもらいうけた。私も昭和37～38年にかけてケープタウンからカイロまでのアフリカ縦断学術調査に使用した日産パトロール1台を帰国後部に寄贈した。その他にも私の手を経た部車は数台に及んでいる。これらの車が戦後の部活動には大いに役立ったものと自ら満足をしている。

そんな事もあってか、山懸高一君や菅直利君等のように戦後初期の自動車部員は少なからず私の研究室に所属していた。また農大の桜丘寮の解体にあたっての廃材を大学からもらい受け、農大が借地し、育種学研究所として使用させてもらっていた敷地の一部に部室を建て、いうならば自動車部は私たちの研究所に居候をしていたのである。そして、農大の農友会としての運動部部室が建てられるまで続いた。記録によるとどうも戦後から昭和45年まで私が自動車部の部長という形になっていたようである。しかし農友会も次第に組織化され、部長は現役の農大職員であること、同じ人物が二つ以上の部長は兼ねられないこととなり、自動車部の部長は農業工学科の小林正氏になっていただいた。

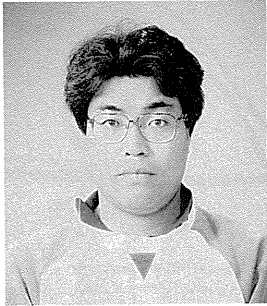
それからもう約25年もたつ。そして現在は自動車部と全く疎遠となってしまっているが、研究所の敷地内に部室があったことや、何か事が起こると「先生」と私のところに部員がかけ込んで来た頃が懐かしく思い出されてならない。

自動車部 10年間の記録



昭和59年度
）
平成5年度

昭和59(1984)年度



主将 大野喜裕

伝統と実績のある自動車部の最上級生として夢中で活動した1年間でした。部長先生を始め、監督、諸先輩方の指導のもと各競技会にむけ全員一丸となり取り組み、その中で、勝つ喜び、負ける悔しさ、協力することの素晴らしさなどを改めて実感することが出来ました。また、対外的な活動の中から、社会人として大切なことを学べて、有意義な1年間でした。

昭和59年度役員

主将・車輛	大野喜裕 (造4)	幹事・代表学連	牛見一彦 (林3)
副将	仲村清輝 (造4)	会計・渉外	清水徳男 (工3)
主務	大川和利 (拓4)	役員	敷井正人 (工3)
会計	中村雅量 (醸4)		
記録・OB会	石垣稔 (栄4)		
渉外	金井和宏 (経4)		
車輛	中野利明 (造4)		
フィギア	小暮重仁 (畜4)		
ラリー	大甕和久 (造4)		
ダートラ・ジムカーナ	襟川仁志 (工4)		



新入生歓迎ドライブ(所沢) 1984年4月

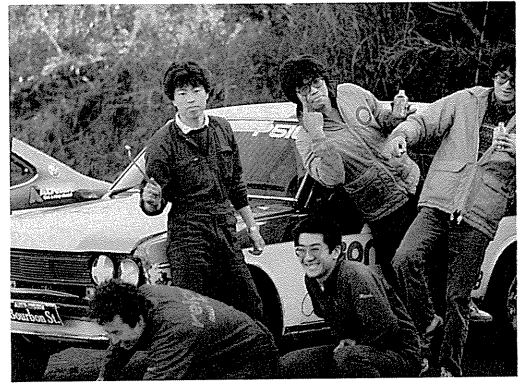
昭和59年度 試合結果

- ・4.28 全関東学生ジムカーナ選手権大会(於：富士スピードウェイCパドック)
 男子団体戦の部 13位(襟川・大野・大夔)
 試合車：フェアレディZ260
- ・5.27 全関東学生自動車ダートクロス(於：オートランド千葉)
 男子団体戦の部 3位(大野・木暮・仲村)
 試合車：チェリー
- ・6.24 全関東学生自動車運転競技選手権大会(於：府中運転免許試験場)
 男子団体戦の部 7位
 (大貨・中野 小貨・仲村 普通・大夔 小四・大野)
 男子個人戦の部 小貨・仲村 優勝
 男子三種戦の部 優勝 小暮
- ・8.2～3 全日本学生自動車整備技術選手権大会(於：中部日本自動車整備専門学校)
 男子団体戦の部 26位(大川・大野・大夔・中野・仲村)
- ・9.2 全日本学生自動車ダートクロス(於：スポーツピア大和)
 男子団体戦の部 7位(大川・大野・大夔)
 試合車：チェリー
- ・10.20～21
 全関東学生ラリー選手権大会(於：埼玉県一円)
 男子団体戦の部 準優勝(大夔・中野・中村)
 試合車：ブルーバード(810)
- ・11.18 全日本学生自動車運転競技選手権大会(於：熊本県松橋運転免許試験場)
 男子団体戦の部 6位
 (大貨・中野 小貨・仲村 普通・大夔 小四・大野)
 男子個人戦の部 普通・大夔 3位
 男子三種戦の部 3位 小暮
- ・全日本総合杯 男子団体戦の部 4位
- ・全関東総合杯 男子団体戦の部 8位

昭和59年度
卒業生の4年間



ジムカーナ練習車の日産バイオレット



S59(1984)年5月
全関ダートラ車の前で(オートランド千葉)



S59(1984)年8月
全日整備大会(名古屋)



S59(1984)年9月
全日ダートラ(大和)
活躍したチェリーの前で



S59(1984)年11月
全日フィギア三種戦
珍しい左ハンドルでのフィギア

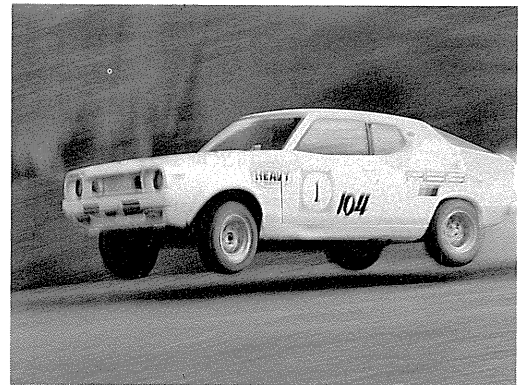


S59(1984)年11月
全日フィギア
応援して下さったOBの方々と一緒に

思い出の部車



全関ジムカーナ車



全日ダートラ車



全関ラリー車
これでも入賞出来た頃



私達の時代で動かなくなったDA

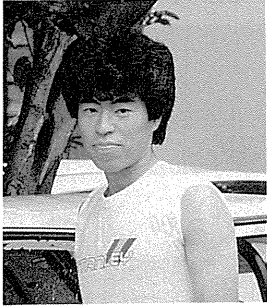


S60(1985)年2月
追い出しラリーが終わって



S60(1985)年3月
卒業式

昭和60(1985)年度



主将 牛見和彦

私たちの代は、3人しかいなかったせいか、後輩を取りまとめていくのが大変だったように思えます。しかし、合宿や日頃のクラブ活動等を通じて勝負の厳しさ、協力することの重要性を痛感しました。試合の成績は良くなかったようですが、自分自身4年間の中で一番燃えた1年間でした。

昭和60年度役員

主将	牛見和彦(林4)	幹事	原田宜典(農3)
副将	清水徳男(工4)	主務	米澤秀幸(経3)
役員	敷井正人(工4)	渉外	金澤仁史(造3)
		会計	長尾佳昭(経3)
		書記	湯野川瑞比古(経3)
		車輛	林 亨(栄3)
		車輛	溝口勝博(化3)
		フィギア	花岡洋文(工3)
		ラリー	石丸 寿(林3)
		ダートラ・ジムカーナ	森口 徹(拓3)
		ダートラ・ジムカーナ	村越浩司(造3)

昭和60年度係

統制——久保将人(醸2)、佐々木裕次(経2) 出席——川村佳郎(工2)

ツール——池田秀樹(林2) 美化——中道裕美(造2) 体連連絡係——一戸武二(農2)



S61(1986)年3月 卒業式

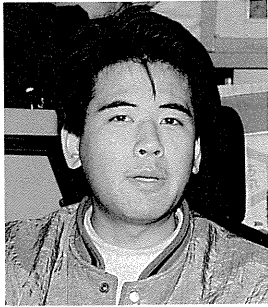
昭和60年度
試合結果

- ・4.27 全関東学生ジムカーナ選手権大会(於：富士スピードウェイ)
男子団体戦の部 17位(牛見・清水・村越)
試合車：フェアレディ260Zでのワンメイク
 - ・5.19 全関東学生自動車運転競技選手権大会(於：府中運転免許試験場)
男子団体戦の部 11位
(大貨・村越 小貨・牛見 普通・清水 小四・金澤)
男子三種戦の部 6位
女子個人戦の部 小貨・中道 失格
 - ・6.16 全関東学生ダートトライアル選手権大会第1戦(於：丸和オートランド那須)
男子団体戦の部 13位(牛見・村越・森口)
試合車：チェリー
 - ・8.1～2 全日本学生自動車整備技術選手権大会(於：トヨタ学園日本自動車整備専門学校)
男子団体戦の部 24位
 - ・9.22 全関東学生ダートトライアル選手権大会第2戦(於：丸和オートランド那須)
男子団体戦の部 14位(村越・森口・米澤)
女子個人戦の部 4位 中道
試合車：男子 パルサー 女子 パルサー
 - ・10.19～20
全関東学生ラリー選手権大会(於：埼玉県一円)
男子団体戦の部 5位(Dr・林 Nv・原田 C・二階堂、山下)
試合車：ブルーバード(810)
 - ・11.24 全日本学生自動車運転競技選手権大会(於：府中運転免許試験場)
男子団体戦の部 10位
(大貨・村越 小貨・米沢 普通・原田 小四・金澤)
男子三種戦の部 5位 花岡
- ・全関東総合杯 男子団体戦の部 11位



S56(1981)年 夏合宿
磐梯ハイランドホテルにて

昭和61(1986)年度



主将 花岡洋文

自動車部に限らず主将となった者の仕事は、①優秀な人材(スタッフ)を多く勧誘する事。②部長、監督との調整役。(私は役不足でした。)③競技会では選手が力を発揮出来るように、時には先頭に立ち、あるいは最後尾から押し上げる。(時には馬鹿になる。) 要は40名近い部員をまとめるのが仕事であったと、卒業して8年たった今だから言えます。現役時代は部長を始め、監督、コーチには多大なる御迷惑をおかけした事を誌面を借りてお詫び致します。せめてもの救いが、この年の全関ダートラでの優勝でした。試合車を前年度のFFから高排気量、高パワーのZへと変更し成功したのも、周囲からの助言、そして部員一丸となって取り組んだ成果です。この優勝で勢いに乗った農大は、最終戦の全関ラリーまで中大、日大と全関杯を競い合いましたが、あと一步のところまで2位に終わりました。終わってみれば短い1年でしたが、目標を持って乗り切れた事に感謝しています。ありがとうございました。

昭和61年度役員

主将	花岡洋文(工4)	幹事・主務	山内忠範(拓3)
副将	金澤仁史(造4)	学連常任委員	片岡健一(工3)
副将	米澤秀幸(経4)	学連常任委員	中道裕美(造3)
役員	石丸 寿(林4)	会計・車輛	池田秀樹(林3)
役員	長尾佳昭(経4)	書記・渉外	俊成典和(経3)
役員	林 亨(栄4)	代表学連・ラリー	二階堂 伸(農3)
役員	原田宜典(農4)	車輛	川村佳郎(工3)
役員	溝口勝博(化4)	フィギア	佐々木裕次(経3)
役員	村越浩司(造4)	ダートラ・ジムカーナ	一戸武二(農3)
役員	森口 徹(拓4)		
役員	湯野川瑞比古(経4)		

昭和61年度係

統制——皿井岩雄(農2)、瀬野英樹(畜2) 備品——田村 守(造2)、森岡清雅(工2)

出席——山下俊之(工2) ツール——小川光児(工2)

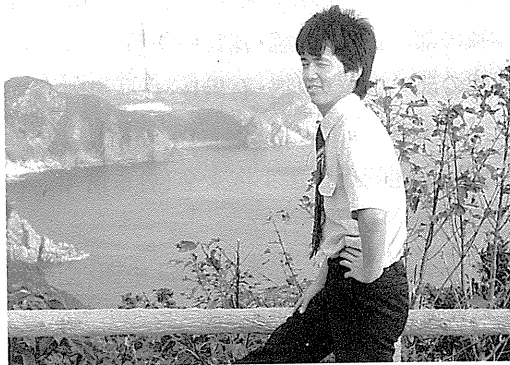
美化——五十嵐慶子(短栄2)、石橋敬子(短栄2)



昭和61年度 試合結果

- ・4.27 全関東学生ダートトライアル選手権大会(於：丸和オートランド那須)
 - 男子団体戦の部 優勝(村越・森口・一戸)
 - 女子団体戦の部 4位(中道・石橋)
 - 試合車：男子 フェアレディZ 女子 パルサー
- ・5.18 全関東学生自動車運転競技選手権大会(於：府中運転免許試験場)
 - 男子団体戦の部 9位
(大貨・村越 小貨・米澤 普通・原田 小四・金澤)
 - 男子三種戦の部 7位 花岡
- ・8.5～6 全日本学生自動車整備技術選手権大会(於：中部日本自動車整備専門学校)
 - 男子団体戦の部 19位(林・原田・村越・二階堂・山内・小川・皿井)
 - 女子団体戦の部 8位(中道・石橋・五十嵐)
- ・9.15 全関東学生ジムカーナ選手権大会(於：富士スピードウェイCパドック)
 - 男子団体戦の部 3位(森口・村越・原田)
 - 女子団体戦の部 6位(石橋・五十嵐)
 - 試合車：ジェミニでのワンメイク
- ・10.18～19 全関東学生ラリー選手権大会(於：埼玉県一円)
 - 男子団体戦の部 準優勝(Dr・林 Nv・金澤 C・二階堂、山下)
 - 試合車：ブルーバード(810)
- ・11.23 全日本学生自動車運転競技選手権大会(於：大阪門真運転免許試験場)
 - 男子団体戦の部 20位
(大貨・佐々木 小貨・米澤 普通・原田 小四・金澤)
 - 男子三種戦の部 4位 花岡
- ・全関東総合杯 男子団体戦の部 準優勝

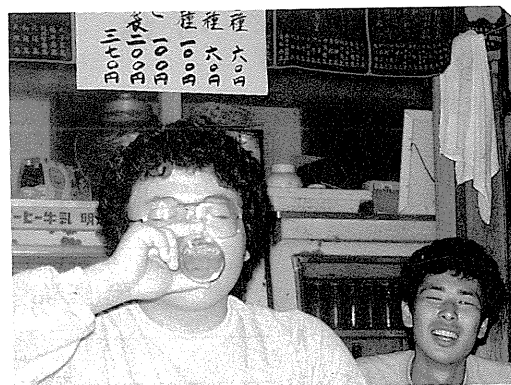
昭和61年度
卒業生の4年間



62年の名物男はやはり森口です。武勇伝は数しれず…
ここでは放送コードの関係で割愛させていただきます



新入生歓迎会 所沢航空記念公園にて



矢指ヶ浦温泉にて教習合宿打ち上げ
人間ポンプ溝口の一気飲み



夏合宿「このくらいの鉄アレイでガタガタ言うな！」
俺達の頃の鬼軍曹に比べればこんなもの…



ハクシヨーイ
また誰かがうわさしてる
モテる男はつらいよ。まったく…



佐渡遠征 新潟港にてひとあばれ



フィギア合宿 練習前の地ならし(?)



キャンペーン東北コース福島にて
こんな良い思い(?)もできました。



新春ラリーの打ち上げ 今はなき寮食にて

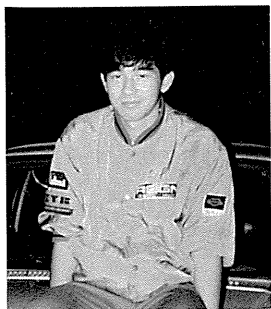


追い出しダートラ 寒い中でも楽しい思い出



卒業式

昭和62(1987)年度



主将 二階堂 伸

前年の全関東総合杯2位という部を引き継いで、本当に大丈夫だろうかという思いで足が震えたスタートでしたが、優秀な部員に恵まれ、成績こそ自慢出来るものではありませんでしたが、久し振りに長期遠征(東北一周)を復活させたり、第25回農大新春ラリーも車輛問題やコース問題等の逆風の中、無事成功させ、次の世代に引き継ぐことが出来ました。心配された新入部員も、うまい(?)勧誘で人数をまとめ、他大学から羨ましがられる人数で1年間運営することが出来ました。

昭和62年度役員

主将	二階堂 伸 (農4)	幹事・フィギア	小川 光児 (工3)
副将	山内 忠範 (拓4)	主務・ダートラ・ジムカーナ	瀬野 英樹 (畜3)
学連常任委員	片岡 健一 (工4)	会計	小松崎 正行 (経3)
学連常任委員	中道 裕美 (造4)	書記・車輛	田村 守 (造3)
役員	久保 将人 (醸4)	代表学連・整備責任者	皿井 岩雄 (農3)
役員	池田 秀樹 (林4)	車輛・運転指導	森岡 清雅 (工3)
役員	一戸 武二 (農4)	ラリー	山下 俊之 (工3)
役員	川村 佳郎 (工4)		
役員	俊成 典和 (経4)		

昭和62年度係

統制——柴田知城(農2) 出席——平山 康(林2) 備品——尾崎精一(短農2)
ツール——中里泰明(工2)



S62(1987)年8月 東北一周遠征にて

昭和62年度 試合結果

- ・4.25 全関東学生ジムカーナ選手権大会(於：富士スピードウェイCパドック)
男子団体戦の部 12位(一戸・小川・瀬野)
試合車：ジェミニ
- ・5.17 全関東学生自動車運転競技選手権大会(於：府中運転免許試験場)
男子団体戦の部 3位
(大貨・小川 小貨・森岡 普通・池田 小四・俊成)
男子三種戦の部 6位 一戸
- ・6.21 全関東学生ダートトライアル選手権大会(於：丸和オートランド那須)
男子団体戦の部 8位(一戸・小川・田村)
試合車：フェアレディZ
- ・10.17～18 全関東学生ラリー選手権大会(於：埼玉県一円)
男子団体戦の部 4位(Dr・一戸 Nv・池田 C・皿井、山下)
試合車：ブルーバード(810)
- ・11.23 全日本学生自動車運転競技選手権大会(於：福岡自動車学校)
男子団体戦の部 24位
(大貨・小川 小貨・皿井 普通・池田 小四・俊成)
男子三種戦の部 13位 一戸
- ・全日本総合杯 男子団体戦の部 14位
- ・全関東総合杯 男子団体戦の部 5位

昭和62年度 卒業生の4年間



S59(1984)年9月
伊勢一周、全日ダートラ遠征(1年)
めずらしい人の顔もちらほら



S60(1985)年
夏合宿(2年)
整備の勉強中



S61(1986)年
夏合宿(3年)
それフィギアの練習?



S62(1987)年11月
全日フィギア合宿(4年)
専修、中央の同期と一緒に



S63(1988)年2月
追い出しコンパ当日
これはめったにない3ショット



S63(1988)年3月
卒業式当日
あつという間の4年間でした

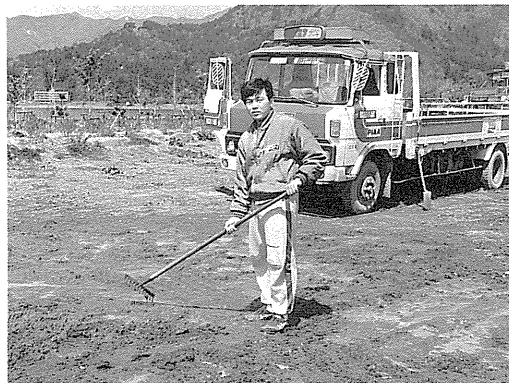
思い出の部車



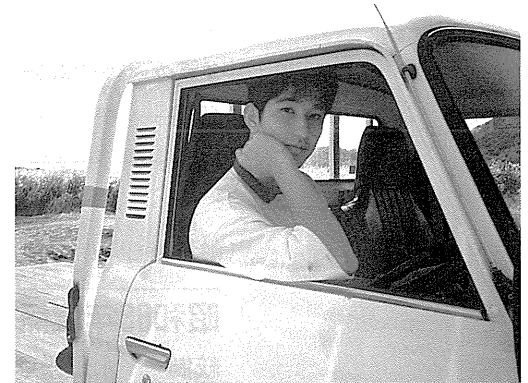
プレーリー (with 池田)
子供の真似をしないようにノ



ブルーバード (with 一戸)
810もうれしそう



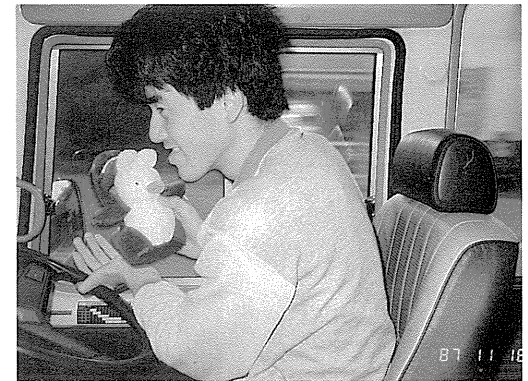
レンジャー (with 山内)
グラウンドを耕す人



クリッパー (with 片岡)
ぼくの愛車です

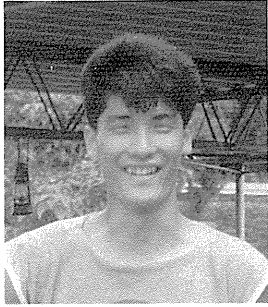


レインボー (with 中道 & 二階堂)
男は背が高くないと…



コースター (with 一戸)
新車とぬいぐるみがあればゴキゲン!

昭和63(1988)年度



主将 小川光児

農友会自動車部の魅力を新入生にうまくPR出来ず、新入部員の勧誘に失敗した年でした。新入部員2名、総部員数も20名に満たない為、金銭的に、また、人手も足りず大変な年でした。そんな状況の中でも部員全員で一丸となり、数々のイベントを成功させ、試合でもまずまずの成績を残せたと思います。

昭和63年度役員

主将———小川光児(工4) 幹事・ラリー———柴田知城(農3)
副将———皿井岩雄(農4) 会計・書記・車輛———中里泰明(工3)
主務・ダートラ・ジムカーナ———瀬野英樹(畜4) 代表学連・フィギア・車輛———平山康(林3)
役員———小松崎正行(経4)
役員———山下俊之(工4)

昭和63年度係

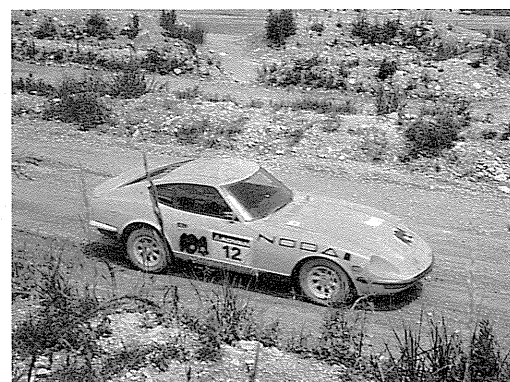
統制——永田雅彦(工2)、松井真一(畜2) 学連常任委員——松井真一(畜2)
出席——根岸一正(工2) 備品——葛西俊蔵(工2)、神原雅人(林2)
ツール——中津川英彦(工2) 美化——小山るい(短栄2)、柴田倫子(短栄2)



S63(1988)年8月 中国地方一周遠征にて

昭和63年度 試合結果

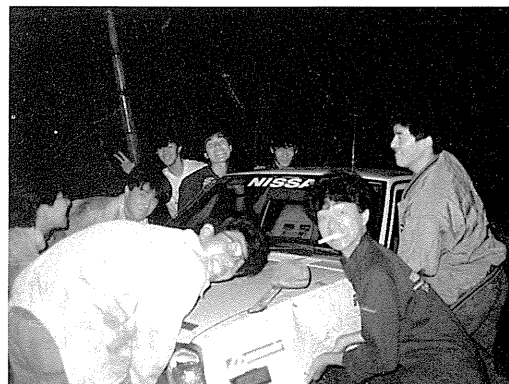
- ・4.23 全関東学生ジムカーナ選手権大会(於：関越スポーツランド)
 男子団体戦の部 28位(小川・瀬野・柴田)
 試合車：ミラージュ
 - ・5.15 全関東学生自動車運転競技選手権大会(於：府中運転免許試験場)
 男子団体戦の部 6位
 (大貨・小川 小貨・皿井 普通・山下 小四・小松崎)
 男子三種戦の部 4位 柴田
 - ・6.19 全関東学生ダートトライアル選手権大会(於：丸和オートランド那須)
 男子団体戦の部 7位(小川・皿井・中里)
 試合車：フェアレディZ(S30)
 - ・10.15～16 全関東学生ラリー選手権大会(於：埼玉県一円)
 男子団体戦の部 3位(Dr・小川 Nv・平山 C・山下、柴田)
 試合車：ファミリアバン(FA4TV)
 - ・11.20 全日本学生自動車運転競技選手権大会(於：府中運転免許試験場)
 男子団体戦の部 6位
 (大貨・小川 小貨・皿井 普通・山下 小四・小松崎)
 男子三種戦の部 結果不明 柴田
- ・全関東総合杯 男子団体戦の部 8位
- ・全日本総合杯 男子団体戦の部 17位



昭和63年度
卒業生の4年間



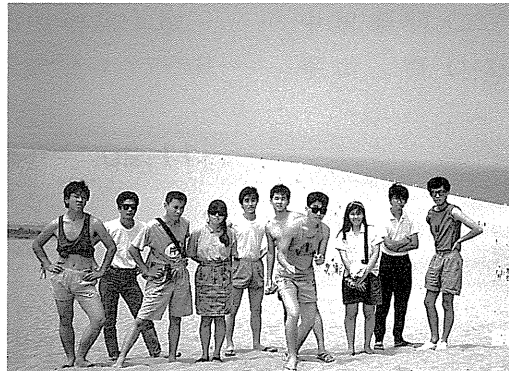
S61(1986)年2月 フィスコパドックにて追い出しジムカーナ。こんな部活やめてやろう!と思っていた頃行われたジムカーナだった。皆、思いとどまった



S61(1986)年
港北のダートにてクラッシュ! みんなで引っ張り出す



S63(1988)年6月
全関ダートスタート前
試合車Zと記念撮影



S63(1988)年8月
中国地方遠征
有名な鳥取砂丘にて



H1(1989)年3月
卒業式直前。部室にて



H1(1989)年3月
卒業式

昭和63年度 試合結果

- ・4.23 全関東学生ジムカーナ選手権大会(於：関越スポーツランド)
 男子団体戦の部 28位(小川・瀬野・柴田)
 試合車：ミラーージュ
 - ・5.15 全関東学生自動車運転競技選手権大会(於：府中運転免許試験場)
 男子団体戦の部 6位
 (大貨・小川 小貨・皿井 普通・山下 小四・小松崎)
 男子三種戦の部 4位 柴田
 - ・6.19 全関東学生ダートトライアル選手権大会(於：丸和オートランド那須)
 男子団体戦の部 7位(小川・皿井・中里)
 試合車：フェアレディZ(S30)
 - ・10.15～16 全関東学生ラリー選手権大会(於：埼玉県一円)
 男子団体戦の部 3位(Dr・小川 Nv・平山 C・山下、柴田)
 試合車：ファミリアバン(FA4TV)
 - ・11.20 全日本学生自動車運転競技選手権大会(於：府中運転免許試験場)
 男子団体戦の部 6位
 (大貨・小川 小貨・皿井 普通・山下 小四・小松崎)
 男子三種戦の部 結果不明 柴田
- ・全関東総合杯 男子団体戦の部 8位
 - ・全日本総合杯 男子団体戦の部 17位



**昭和63年度
卒業生の4年間**



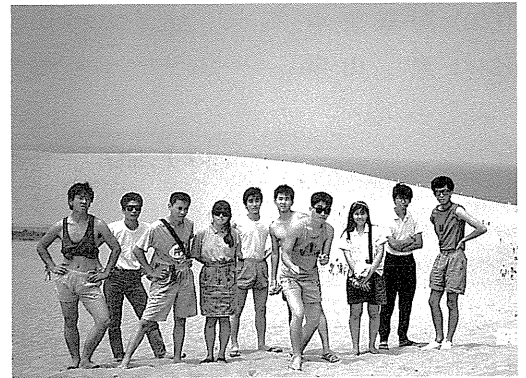
S61(1986)年2月 フスコCパドックにて追い出しジムカーナ。こんな部活やめてやろう!と思っていた頃行われたジムカーナだった。皆、思いとどまった



S61(1986)年
港北のダートにて
クラッシュ! みんなで引っ張り出す



S63(1988)年6月
全関ダートスタート前
試合車Zと記念撮影



S63(1988)年8月
中国地方遠征
有名な鳥取砂丘にて



H1(1989)年3月
卒業式直前。部室にて



H1(1989)年3月
卒業式

平成元(1989)年度



主将 柴田知城

年号が昭和から平成へとかわり、とても慌ただしかった頃のように思います。自動車部の活動としても、これをとりまく環境、使用される車両、部品、各競技でのルール等が少しずつ変化していき、とても金持ちとはいえない状況にあった農大自動車部は、この波について行けなかったこともしばしばでした。試合結果はとても胸を張れるようなものではありませんでしたが、なるべくお金をかけずみんなで工夫しながら頑張ったように思います。伝統である夏季の遠征は九州へ。地元のOBの方々の心からの歓迎をうけ、とても楽しく思い出深いものとなりました。もうこの先、こんな苦しく楽しい旅は出来ないでしょう。同学年が3人となってしまい前後の学年にはいろいろと迷惑をかけてしまった我々は、農大自動車部の歴史の中では劣等生であったと思います。しかし、部内の雰囲気はとても和やかで楽しく、そして統制のとれていた1989年の自動車部でありました。

平成元年度役員

主将	柴田知城(農4)	幹事・代表学連	永田雅彦(工3)
副将	中里泰明(工4)	学連常任委員	松井真一(畜3)
副将	平山康(林4)	主務・車輛	神原雅人(林3)
		フィギア・車輛	葛西俊蔵(工3)
		書記・ラリー	中津川英彦(工3)
		会計・ダートラ・ジムカーナ	根岸一正(工3)

平成元年度係

統制——大場秀之(農2)、来田聖也(工2)
出席——大場秀之(農2) 備品——来田聖也(工2)
ツール——中津川英彦(工3)



HI(1989)年7月九州遠征にて

平成元年度 試合結果

- ・3.26 全関東学生自動車運転競技選手権大会(於：府中運転免許試験場)
 - 男子団体戦の部 14位
(大貨・中津川 小貨・神原 普通・柴田 小四・根岸)
 - 男子個人戦の部 普通・柴田 優勝
 - 三種戦の部 5位 葛西
- ・5.19 全関東学生ジムカーナ選手権大会(於：関越スポーツランド)
 - 男子団体戦の部 16位(柴田・中津川・根岸)
 - 試合車：パルサー(PN-12)
- ・6.18 全関東学生ダートトライアル選手権大会(於：丸和オートランド那須)
 - 男子団体戦の部 7位(柴田・葛西・中津川)
 - 試合車：フェアレディZ(S-31)
- ・8.27 全日本学生ダートトライアル選手権大会(於：スポーツピア大和)
 - 台風の為中止
- ・10.7～8 全関東学生ラリー選手権大会(於：埼玉県内150km)
 - 男子団体戦の部 10位(Dr・平山 Nv・柴田 C・葛西、中津川)
 - 試合車：ファミリアバン(FA4TV)
- ・全関東総合杯 男子団体戦の部 7位



全関東ダート車 この車になって4年目

平成元年度
卒業生の4年間



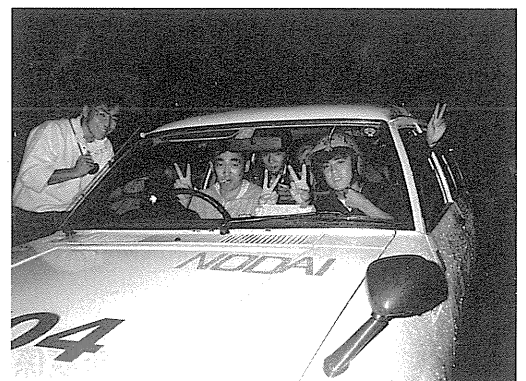
S62(1987)年2月
先輩の追いコンにて
入部して1年、まだまだ小僧である



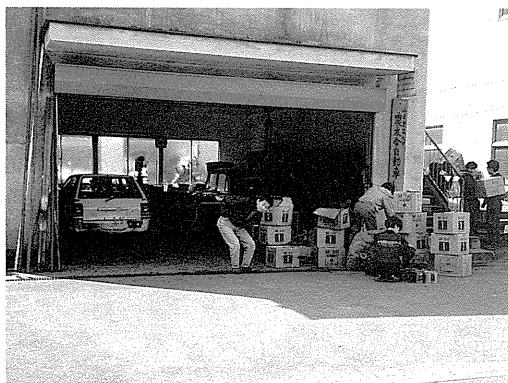
H1(1989)年8月
九州遠征 熊本城前にて
遠征は他人が見ると変な集団



H1(1989)年 ある朝
部室に泊まると体がかゆくなる



H1(1989)年10月
全関ラリーー Dr 平山、Nv 柴田
C1 中津川、C2 葛西、外の人物は応援?

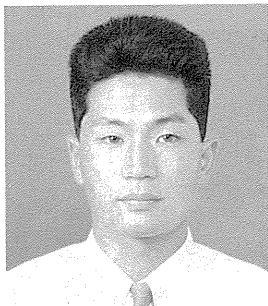


H2(1990)年3月
卒業間際のある日
フィギア合宿の準備をする後輩達



H2(1990)年3月
卒業式

平成2(1990)年度



主将 中津川英彦

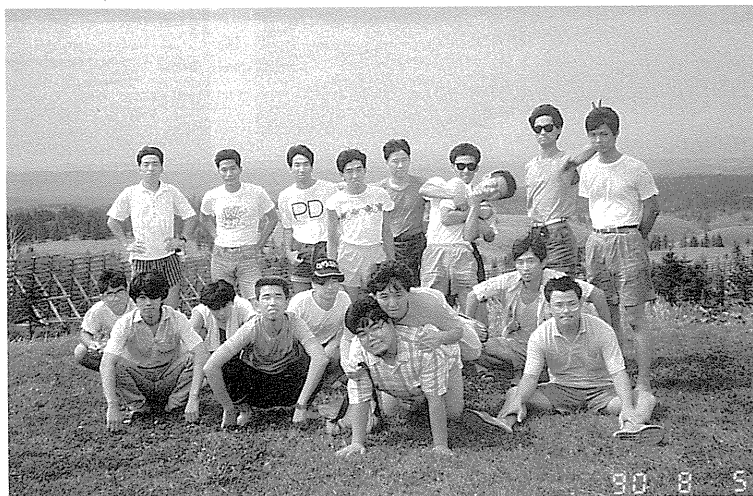
学生自動車連盟を中心とした自動車部の活動が、よりモータースポーツ色の濃い内容となっていく中で、他大学に負けまいとジムカーナ車、ダートラ車を次々に新型車両に入れ替え、また、ラリーコンピューターを本格的に導入するなど絶対の自信を持って試合に臨み、その積極的な試合展開でいつも周囲の目を驚かせていました。また、競技への参加だけでなく、定期的な合宿や北海道遠征の計画、実施、新春ラリーの開催など、休む暇なく活動し、悪戦苦闘の1年間でした。

平成2年度役員

主将——中津川英彦(工4) 幹事・会計・車輜——来田聖也(工3)
副将・代表学連——永田雅彦(工4) 書記・ラリー・車輜——大場秀之(農3)
学連常任委員——松井真一(畜4)
主務——神原雅人(林4)
フィギア——葛西俊蔵(工4)
ダートラ・ジムカーナ——根岸一正(工4)

平成2年度係

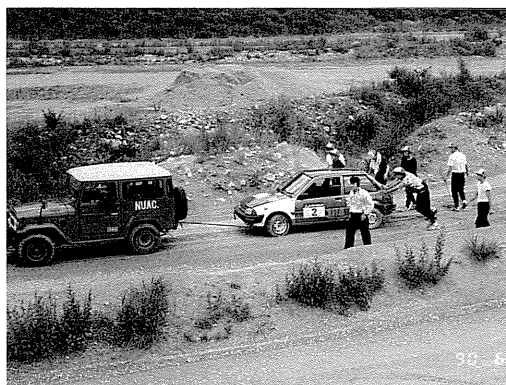
統制——大島憲一(拓2)、杉原松文(工2) 学連常任委員——大島憲一(拓2)
主務補佐——高橋康二郎(醸2) 代表学連補佐——古谷祥司(工2)
書記補佐・美化——渡橋周子(畜2) 出席——浮貝卓史(短農2)、湯川智元(農2)
備品——大津貴弘(拓2)、古澤伸哉(林2) ツール——大塚隆一(短農2)、吉田康治(農2)



H2(1990)年7月 北海道遠征にて

平成2年度
試合結果

- 4.8 全関東学生自動車運転競技選手権大会(於：府中運転免許試験場)
男子団体戦の部 6位
(大貨・中津川 小貨・来田 普通・葛西 小四・根岸)
男子個人戦の部 大貨・中津川 3位
普通・葛西 3位
個人複合戦の部(小貨・普通) 優勝 古澤
- 5.12 全関東学生ジムカーナ選手権大会(於：浅間台スポーツランド)
男子団体戦の部 23位(葛西・根岸・来田)
試合車：男子 MR2(AW11)
- 6.17 全関東学生ダートトライアル選手権大会(於：丸和オートランド那須)
男子団体戦の部 20位(中津川・根岸・来田)
女子個人戦の部 16位 渡橋
試合車：男子 スターレット(EP71) 女子 スターレット(KP61)
- 10.13~14 全関東学生ラリー選手権大会(於：埼玉県一円)
男子団体戦の部 13位 (Dr・根岸 Nv・来田 C・中津川、大場)
- 11.25 全日本学生自動車運転競技選手権大会(於：福岡県自動車学校)
男子団体戦の部 失格
(大貨・中津川 小貨・来田 普通・葛西 小四・根岸)
- 全関東総合杯 男子団体戦の部 11位



全関東ダートでは無念のアクシデントが起きた

平成2年度
卒業生の4年間



S62(1987)年4月
恒例の新歓コンパ。みんな若く、
つらい4年間が待っているとは夢にも思っていない様子



H1(1989)年3月
府中での全関フィギア
桜が満開で、絶好のフィギア日和です!



H1(1989)年6月
全関ダートラ終了後
レンジャーに積んでいるのはスペアカーです



H1(1989)年7月
九州遠征。遠征でも1日は、
ミーティングで始まりミーティングで終わる



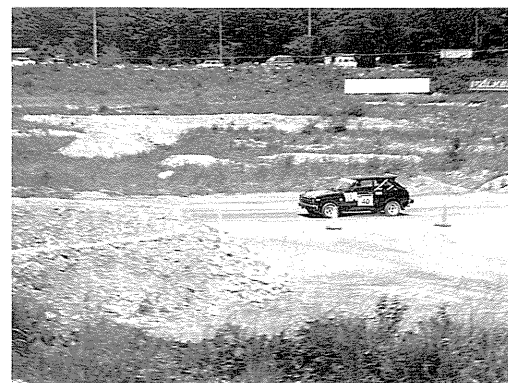
H2(1990)年2月
法政大学ダートラ場の合同練習会にて
練習車のオンボロバルサーはコース脇の木柱に激突
しかし参加者の表情は意外に明るい



H2(1990)年6月
日野レンジャーついにダウン
解体屋でエンジン(金6万円也)を買ってきて
部室で2日半の大手術の末、再び息を取り戻す



期待の新型車両の疾走
H2(1990)年5月 全関ジムカーナ



究極のFR車!
H2(1990)年6月 全関ダートラ女子車



H3(1991)年2月
追い出しコンパ



H3(1991)年3月
卒業式

平成3(1991)年度



主将 来田聖也

4年生は口出しせずに金を出せ!!

「4年生時代の部活動をテーマに文章を書け!」との有無を言わさぬ指令が、ただひとりの同期、大場秀之(実名)氏から下りペンを取ることになりました。私達(大場氏と私)の入部時には5名(だったと思う)の同輩がいましたが、大場氏と私の2名しか残っていないと気付いたのが、4年生になった時である事を記憶しています。私が主将に、大場氏が副将という大任を仰せつかりましたが、名ばかりの将であった事は間違いありません。春から夏にかけては就職活動、夏から冬にかけては研究室、卒業論文を口実にクラブに顔を出さない日がままたりました。しかしながら、私と大場氏との間で「クラブは3年生が運営すべきであり、4年生はあまり口出しをしない方が良い。後輩を信頼し、困った時にこそ天の声となるアドバイスを授ける。」という身勝手な方針で遠くから見守っていました。『4年生は口出しせずに金を出せ!!』との格言が生まれたのも、私と大場氏が4年生になる時の事だったと思います。今さら言うまでもなく私&大場氏は金も出しませんでした…。

平成3年度役員

主将・代表学連	来田聖也(工4)	車輛	杉原松文(工3)
副将・代表武連	大場秀之(農4)	車輛	湯川智元(農3)
		フィギア	古澤伸哉(林3)
幹事・ラリー	吉田康治(農3)	会計・ダートラ・ジムカーナ	大津貴弘(拓3)
学連常任委員	大島憲一(拓3)	代表学連補佐・ダートラ・ジムカーナ	古谷祥司(工3)
主務	高橋康二郎(醸3)		
書記	渡橋周子(畜3)		

平成3年度係

統制——神藤充宏(工2)、中山靖之(畜2) 出席——関根浩司(林2)
備品——十萬雄輔(拓2) ツール——泉拓児(醸2)、長峰輝男(拓2)
美化——木内聰子(短栄2)



H3(1991)年11月 部室前でレンジャーと一緒に

平成3年度 試合結果

- ・3.31 全関東学生自動車運転競技選手権大会(於：府中運転免許試験場)

男子団体戦の部 9位
(大貨・来田 小貨・古澤 普通・高橋 小四・大津)

女子個人戦の部 普通・渡橋 4位
小四・木内 失格
- ・5.3 GS日本電池カレッジカップ'91学生ジムカーナシリーズ関東大会
《全日本学生自動車連盟40周年記念行事》(於：浅間台スポーツランド)

男子団体戦の部 13位(大津・杉原・古谷)
女子団体戦の部 7位(渡橋・木内)

試合車：カルタス(AA34S)でのワンメイク
- ・5.12 全関東学生ジムカーナ選手権大会(於：浅間台スポーツランド)

男子団体戦の部 18位(大津・古澤・古谷)
女子個人戦の部 7位 渡橋

試合車：男子 MR2(AW11) 女子 スターレット(EP71)
- ・6.16 全関東学生ラリースプリント選手権大会(於：丸和オートランド那須)

男子団体戦の部 11位(来田・大津・湯川)
女子個人戦の部 3位 渡橋

試合車：スターレット(EP71-T) 男女同一車
- ・7.31 全日本学生ラリースプリント選手権大会(於：丸和オートランド那須)

男子団体戦の部 8位(来田・大津・湯川)
試合車：スターレット(EP71-T)
- ・8.11 GS日本電池カレッジカップ'91学生ジムカーナシリーズ全国大会
《全日本学生自動車連盟40周年記念行事》(於：浅間台スポーツランド)

男子団体戦の部 11位(大津・杉原・古谷)
女子団体戦の部 7位(渡橋・木内)
女子個人戦の部 3位 渡橋

試合車：カルタス(AA34S)でのワンメイク
- ・10.19～20 全関東学生ラリー選手権大会(於：埼玉県一円)

男子団体戦の部 優勝(Dr・高橋 Nv・来田 C・吉田、湯川)
試合車：サニー(HB11)
- ・11.23 全日本学生自動車運転競技選手権大会(於：八王子サマーランド)

男子団体戦の部 16位(大貨・来田 小貨・古澤 普通・高橋 小四・湯川)
男子個人戦の部 普通・高橋 3位
- ・全関東総合杯 男子団体戦の部 7位
女子個人戦の部 3位 渡橋

平成3年度
卒業生の4年間



S63(1988)年4月
おなじみのB宿での新歓コンパ
写っている3人の新入生のうち、2人はさくらです



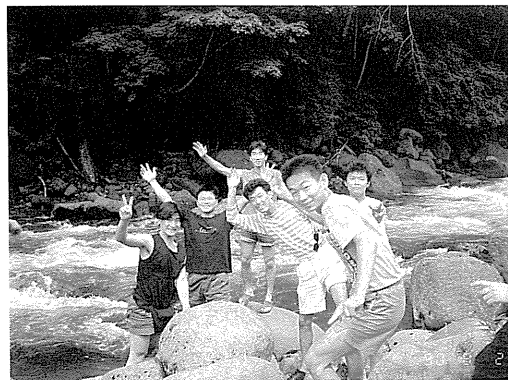
S63(1988)年6月
入部して間もなくの全関ダート。このころはだいぶ車検もア
バウトであった。Zのカムカバーはもちろんぴかぴかである



H1(1989)年7月
九州遠征 関門橋にて
あやしいサングラスが多すぎる!



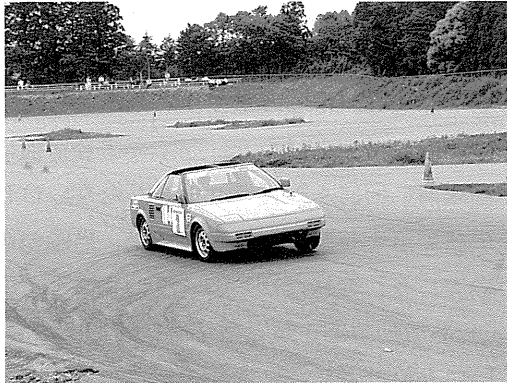
H2(1990)年11月
フィギア合宿 ガーデンハウスにて
おーい メシ!!



H2(1990)年8月
北海道遠征 川原にて
北海道の自然はすごい!



H3(1991)年8月
渥美半島のどあるダートにて
アンダーの結果ですが張本人は写っていません



1991の試合車達↑→↓
下の写真もちょっと変ですが、れっきとした女子のジムカーナ車です(誰の趣味!?)



H4(1992)年3月 卒業式

平成4(1992)年度



主将 吉田康治

アッという間に過ぎてしまった1年間でした。「勝つ」という、至福の快感を3年生の時に味わってしまった私は、皆にそれを無理強いしてしまったと、今は思っています。試合車に、練習に、お金も時間も知恵も、惜しみ無く注ぎ込みました。練習会に何度も参加したり、全日本ドライバーに協力してもらったり、フィギア合宿前に大学の浦和運動場で練習したり、内緒で全関ラリー前に何回も練習ラリーをしたり、OB会に援助して頂いたり、それはそれは、出来る限りの事をしました。その結果、当時の役員達はバイトも満足に出来ず、徴収も多かったのも、それを払うために3度の食事を1度に減らした者も多くいたと思います。当然、学生の部活動である事との矛盾にも悩んだものでした。そして、「勝つ」と言う事は易く、成し難いものだと、我々も、後輩達も学んだ1年間でした。団体では残念ながらタイトルを獲得出来ませんでした。渡橋君が全関東、全日本の個人総合タイトルを創部以来初めて獲得し、後に続く後輩達のいい目標になってくれていると思います。

平成4年度役員

主将	吉田康治(農4)	幹事・車輛	十萬雄輔(拓3)
副将	古谷祥司(工4)	主務・フィギア	関根浩司(林3)
学連常任委員	大島憲一(拓4)	会計・書記	木内聡子(栄3)
OB会担当	渡橋周子(畜4)	代表学連・ラリー	神藤充宏(工3)
役員	大津貴弘(拓4)	ダートラ・ジムカーナ	長峰輝男(拓3)
役員	杉原松文(工4)	車輛	中山靖之(畜3)
役員	高橋康二郎(醸4)		
役員	古澤伸哉(林4)		
役員	湯川智元(農4)		

平成4年度係

統制——篠原良平(開2)、瀬川貴志(畜2)
備品——双石正仁(工2)、土屋幸康(林2)、村上裕之(林2)
美化——萩原彰子(林2) 体連連絡係——平井純一(林2)



H4(1992)年8月 鈴鹿サーキットでの全日ジムカーナ

平成4年度 試合結果

- 寺に
含車
した
東習
り、
に出
いた
つ」
は残
イト
す。
- 石3)
林3)
米3)
工3)
拓3)
畜3)
- ・3.22 全関東学生自動車運転競技選手権大会(於：府中運転免許試験場)
男子団体戦の部 4位
(大貨・杉原 小貨・古澤 普通・高橋 小四・湯川)
女子個人戦の部 小貨・渡橋 優勝
小四・木内 5位
- ・5.5 全関東学生ジムカーナ選手権大会(於：浅間台スポーツランド)
男子団体戦の部 8位(大津・古澤・杉原)
女子団体戦の部 3位(渡橋・木内)
女子個人戦の部 優勝 渡橋
試合車：スターレット(EP71-T) 男女同一車
- ・6.21 全関東学生ダートライアル選手権大会(於：丸和オートランド那須)
男子団体戦の部 17位(湯川・古谷・関根)
女子団体戦の部 3位(渡橋・木内)
女子個人戦の部 3位 渡橋
試合車：男女とも スターレット(EP71-T)
- ・8.5 全日本学生ダートライアル選手権大会(於：丸和オートランド那須)
女子団体戦の部 5位(渡橋・木内)
女子個人戦の部 優勝 渡橋
試合車：スターレット(EP71-T)
- ・8.31 全日本学生ジムカーナ選手権大会(於：鈴鹿サーキット南コース)
男子団体戦の部 8位(大津・杉原・篠原)
女子団体戦の部 4位(渡橋・木内)
女子個人戦の部 優勝 渡橋
試合車：スターレット(EP71-T) 男女同一車
- ・10.17～18 全関東学生ラリー選手権大会(於：埼玉県一円)
男子団体戦の部 7位(Dr・杉原 Nv・湯川 C・吉田、神藤)
女子団体戦の部 準優勝(Dr・渡橋 Nv・木内 C・小野塚)
試合車：男子 スターレット(EP71) 女子 サニー(HB11)
- ・11.29 全日本学生自動車運転競技選手権大会(於：明石運転免許試験場)
男子団体戦の部 4位(大貨・杉原、小貨・古澤、普通・高橋、小四・大津)
男子個人戦の部 大貨・杉原 3位
女子個人戦の部 小貨・渡橋 3位
- ・全日本総合杯 男子団体戦の部 11位
女子団体戦の部 8位
女子個人戦の部 優勝 渡橋
- ・全関東総合杯 男子団体戦の部 5位
女子団体戦の部 7位
女子個人戦の部 優勝 渡橋

平成4年度
卒業生の4年間



H1(1989)年5月
関越スポーツランドでの全関ジムカーナ
入部して初めての公式戦、みんな若い!



H2(1990)年3月
珍しいミーティングの写真
2年になりたての頃です



H3(1991)年8月
浅間台スポーツランドでの全日カレッジカップ
3年生だけでポーズ!



H4(1992)年8月
丸和オートランド那須での全日ダート
開会式前のリラックスした一時です



H3(1991)年11月
全日フィギア惨敗の因
部室でけじめの断髪式



H5(1993)年3月
卒業旅行で行ったスキー場の貸別荘にて
なんかあやしい集合写真ですね



活躍したダートラ車
H4(1992)年8月 全日ダートラ



活躍したジムカーナ車
H4(1992)年8月 全日ジムカーナ



農大自動車部初の学生チャンピオン!
渡橋選手



H5(1993)年3月
卒業式当日

平成5(1993)年度



主将 関根浩司

平成5年の農大自動車部も、行事が多く忙しい毎日が続き、あっという間の1年間だった様に思います。そんな1年の中で試合に関しますと、初めの全関フィギアで3位、全日ダート4位、秋の全関ラリーで女子準優勝などまざまざの成績だったのではないかと思います。また、他大が部員数の減少で苦しんでいるのに比べれば、この面に関しては農大は恵まれていました。いろいろな面でもっと上に行ける部だと思いますので、現役部員達は一丸となって頑張っただけです。

平成5年度役員

主将	関根浩司(林4)	幹事・書記・OB会担当	土屋幸康(林3)
副将・代表学連	神藤充宏(工4)	主務・会計	篠原良平(開3)
幹事相談役	十萬雄輔(拓4)	車輛・フィギア	平井純一(林3)
会計相談役	木内聰子(栄4)	ラリー	瀬川貴志(畜3)
車輛相談役	中山靖之(畜4)	ダートラ・ジムカーナ	双石正仁(工3)
ダートラ・ジムカーナ相談役	長峰輝男(拓4)		

平成5年度係

統制——内藤和徳(農2)、永山聡(工2) 学連常任委員——横山並樹(開2)
代表学連補佐——饗場 全(醸2) 備品——岡崎康友(農2)
美化——小野塚裕美(醸2)、岩崎哲史(短生2)

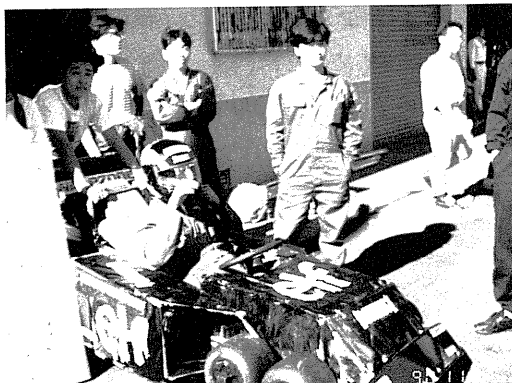


H5(1993)年8月 東北遠征出発の日。部室前にて

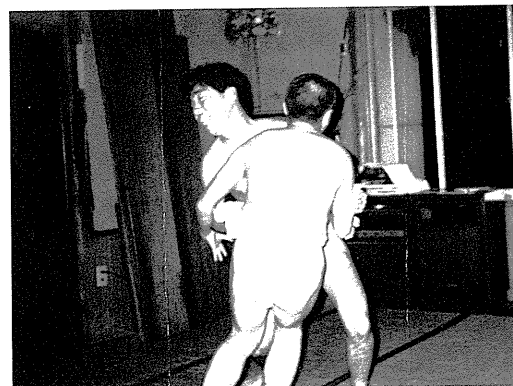
平成5年度
試合結果

- ・3.28 全関東学生自動車運転競技選手権大会(於：府中運転免許試験場)
男子団体戦の部 3位
(普貨・関根 小貨・神藤 普通・長峰 小四・十萬)
男子個人戦の部 普通・長峰 3位
女子個人戦の部 普通・小野塚 5位
小四・木内 7位
- ・5.3 全関東学生ジムカーナ選手権大会(於：浅間台スポーツランド)
男子団体戦の部 失格(長峰・篠原・平井)
女子団体戦の部 8位(木内・小野塚)
試合車：スターレット(EP71-T) 男女同一車
- ・7.4 全関東学生ダートトライアル選手権大会(於：丸和オートランド那須)
男子団体戦の部 8位(関根・篠原・平井)
男子個人戦の部 3位 篠原
女子団体戦の部 6位(木内・小野塚)
試合車：男女ともスターレット(EP71-T)
- ・8.4 全日本学生ダートトライアル選手権大会(於：丸和オートランド那須)
男子団体戦の部 4位(双石・篠原・平井)
男子個人戦の部 3位 篠原
試合車：スターレット(EP71-T)
- ・10.23~24 全関東学生ラリー選手権大会(於：埼玉県内150km以内)
男子団体戦の部 8位(Dr・双石 Nv・関根 C・瀬川、土屋)
女子団体戦の部 準優勝(Dr・木内 Nv・柳沢 C・小野塚、齋藤)
試合車：男子 スターレット(EP71) 女子 サニー(HB11)
- ・11.21 全日本学生自動車運転競技選手権大会(於：福岡自動車学校)
男子団体戦の部 失格
(大貨・関根 小貨・神藤 普通・平井 小四・瀬川)
- ・全関東総合杯 男子団体戦の部 7位
女子団体戦の部 4位

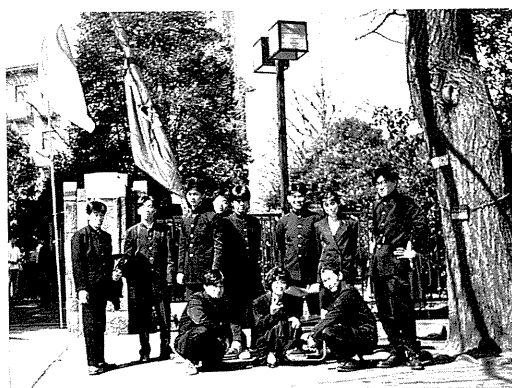
平成5年度
卒業生の4年間



H2(1990)年11月
収穫祭での各部対抗リレー
まだ1年生、けがれない笑顔ですね



H2(1990)年11月
矢指のフィギア合宿打ち上げにて
名物モンゴル相撲 あっ見えちゃった!



H3(1991)年3月
先輩の卒業記念写真撮影後
春ですねえ



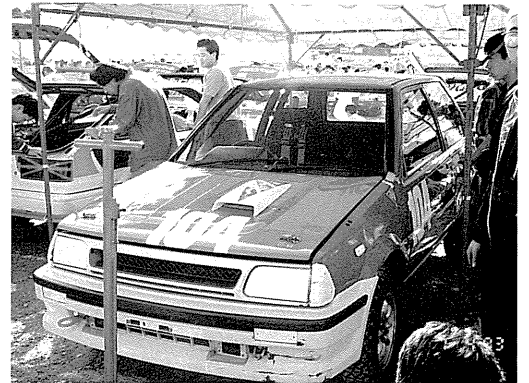
H4(1992)年8月
信州・北陸遠征にて
初日の白樺湖畔、OBの方と一緒に



H5(1993)年11月
試合遠征先の太宰府天満宮にて
全日フィギアの必勝祈願をしたのに…



H6(1994)年2月
茨城中央サーキットでの追い出し行事にて
学生生活最後のジムカーナを満喫!



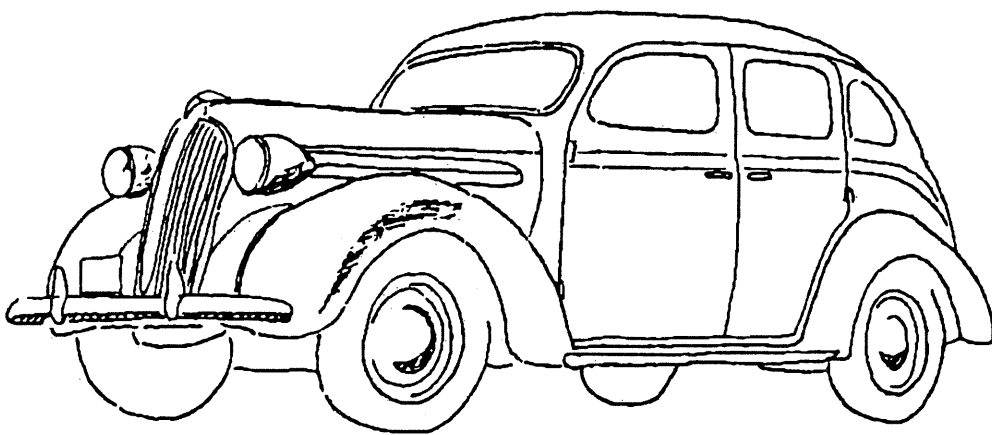
1993の試合車たち



H6(1994)年3月 卒業式



平成5年度卒業生一同



プリムス37

思い出の部車

車があつての自動車部にとって、部車というものは実に思い出深いものであり、何年たっても「あーこういう車もあつたな…、この車の傷は俺がつけたんだ…」と話に華をそえる存在であると思う。

雨の中での洗車、早朝からの押しがけ、走行中の故障といろいろな出来事もあつたが、それ以上の何かが部車というものにはあつたのではと…。



日産パトロール (S.50~S.62)

トルクのすごい車。シンクロが付いていなかったの
でコツが必要だった。全関ダートラの救助車として
も活躍。

ダットサンセダン210 (S.41~現在)

10年間の走行距離は10kmの大台にのるか? いつ
のまにか部のマスコットカー的存在となる。



日野レインボー (S.56~S.62)

昭和55年度の卒業生一同が寄贈。風の抵抗など
まったく無視した、まるで赤と白の積み木のような車。



日産ブルーバード810 (S.57~S.62)

新春ラリーで活躍した。昭和59年全関ラリー優勝車。

日産クリッパー (S.58~S.63)

昭和57年度の卒業生一同が寄贈。前歴は米屋の配送車。ガソリン車だった。



日野レンジャー (S.58~H.4)

昭和57年度の卒業生一同が寄贈。前歴は沖電気の工場内で使用されていた。後年オーバーヒート多発で村田監督から「整備が悪いのではないか?」と詰問される事もしばしばだった。

日産プレーリー (S.60~現在)

先の50周年記念時に全国一周をした車。部車の中で最も通行人の熱い視線を感じた。





マツダファミリアバン (S.62~H.2)

「ゴン太君」の愛称で部員に親しまれていた。新春ラリーのコース取りで活躍。

トヨタコースター (S.62~現在)

昭和61年度の卒業生一同が寄贈。試合、合宿、遠征と活躍。時には収穫祭の宣伝パレードなどにも出動。



イズベルフ (S.63~H.5)

昭和62年度の卒業生一同が寄贈。走る時はいつもスターレットを積んでいた。



日産サニー (H.2~H.6)

平成3年度の全関ラリー優勝車。本当はスカイラインの予定だったが…。





日産コンドル (H.4～現在)

OB会が寄贈したエアコン付きの快適車(なんと50周年記念のプレーリー以来の新車!)

日産アトラス (H.5～現在)

平成4年度の卒業生一同が寄贈。「パネル付きなので車は積みにくいけど雨宿りは快適です。」

某現役部員談



ホンダアコード (H.6)

部内初(?)のホンダ車。平成4年度卒の高橋より寄贈。諸事情により、わずか半月で廃車となった。(先輩ごめんなさい。)

以上計14台